

長浜企業 景況調査

報告書



実績 2025年 1月～3月
見通し 2025年 4月～6月

今期のトピックス

- ①原油等、原材料価格上昇の影響について
- ②人手不足への対策について



アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！
 発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。
 補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)
 健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Andoroid・タブレットをご利用の方⇒
 Google Play ストアからダウンロード



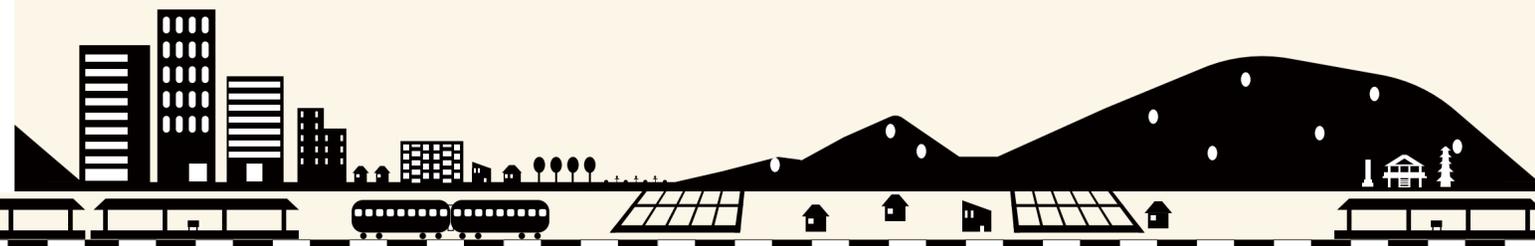
■Iphone・ipad をご利用の方⇒
 App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



 **長浜商工会議所**
 NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



コンテンツ

01 調査概要

05 業種ごとの動向
(卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)

02 今期のトピックス

07 設備投資の有無

03 全体の景況感 (総括)

08 調査項目別 DI の推移

04 調査項目別 DI 値

10 その他業種別自由意見

04 業種別業況 DI の推移 (長期トレンド)

調査概要

長浜企業景況調査について

① 調査対象期間・調査時点

調査対象期間: 令和7年1月~3月
調査時点: 令和7年4月1日

② 調査方法

長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式
・メール方式による調査

③ 調査対象企業数

220社 (内訳は右表通り)

④ 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	16	11.9%	66.7%
小売業	40	18.2%	24	17.9%	60.0%
サービス業	70	31.8%	38	28.4%	54.3%
建設業	32	14.5%	19	14.2%	59.4%
製造業	54	24.5%	37	27.6%	68.5%
合計	220	100.0%	134	100.0%	60.9%

長浜企業景況調査の見方について

DI 指数について

- ① 調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ② 調査項目のうち、「業況(自社)」「売上高」「採算(経常利益)」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向(同業他社)」「長・短期資金借入難易度」「受注動向(建設業)」「在庫量(製造業)」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③ 「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

DI 指数の見方について

- ① DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気が良い」と判断されます。
- ② このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③ 業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④ 資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤ 小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDI、サービス業は従業員DIの推移が注目する指数です。
- ⑥ 建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のため1~3月期は総じて低調な傾向となります。

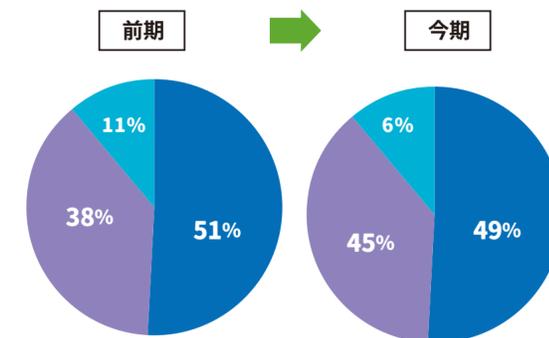
設備投資の見方について

- ① 好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

今期のトピックス

1. 原油等、原材料価格上昇の影響

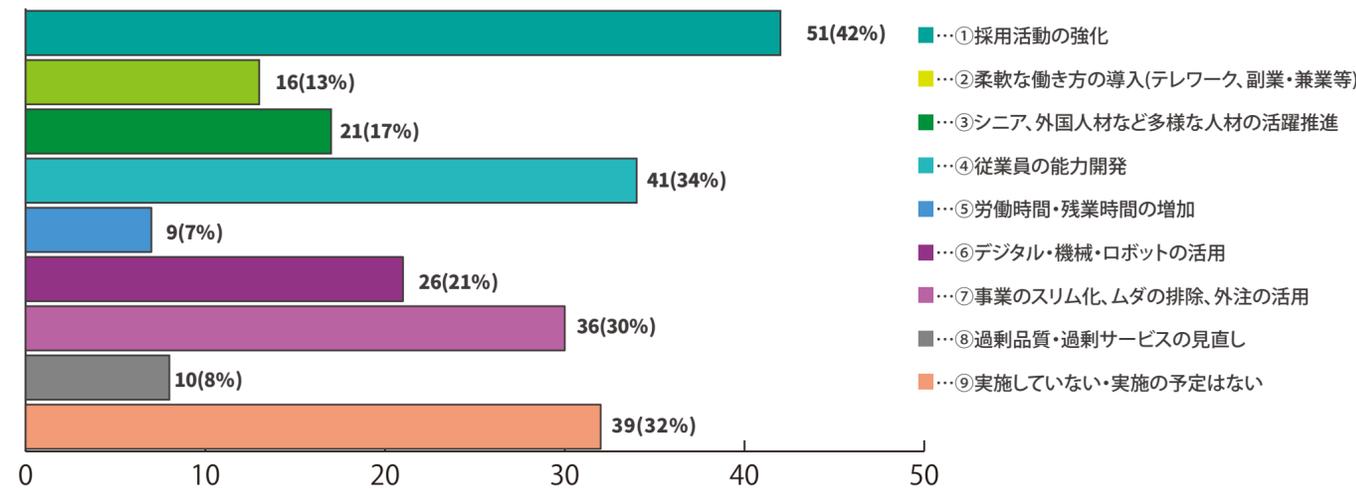
	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
悪影響がある	7	15	8	10	22	62
少し悪影響がある	8	7	20	9	13	57
悪影響はない	0	0	7	0	1	8
合計	15	22	35	19	36	127



■…悪影響がある ■…少し悪影響がある ■…悪影響はない

2. 人手不足への対策について「現在実施している」または「今後予定している」もの (複数回答あり、有効回答社数 122 社、回答数 249)

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①採用活動の強化	5	4	12	14	16	51
②柔軟な働き方の導入(テレワーク、副業・兼業等)	2	0	6	3	5	16
③シニア、外国人材など多様な人材の活躍推進	1	1	1	5	13	21
④従業員の能力開発	6	2	8	11	14	41
⑤労働時間・残業時間の増加	0	0	1	1	7	9
⑥デジタル・機械・ロボットの活用	2	1	6	3	14	26
⑦事業のスリム化、ムダの排除、外注の活用	4	6	4	7	15	36
⑧過剰品質・過剰サービスの見直し	1	3	2	2	2	10
⑨実施していない・実施の予定はない	6	10	13	0	10	39
合計	27	27	53	46	96	249



※各項目の()内の割合は、回答社数に占める割合(複数回答のため合計は100%にならない)

全体の景況感（総括）

業況DIはマイナス幅が縮小

全体の業況DIは、前期（2024年10-12月期）の▲5.3から今期は▲1.5とマイナス幅が縮小しました。売上高DIは1.5で前期比1.5ポイント上昇、採算（経常利益）DIは▲3.7で同4.6ポイント上昇しました。

販売価格DIは47.0で前期比5.8ポイント上昇し、仕入れ価格DIは78.0で同6.5ポイント上昇しました。その結果、販売価格DIから仕入れ価格DIを差し引いた価格転嫁度は▲31.0で同0.7ポイントマイナス幅が拡大しました。

従業員DIは▲20.3で前期に比べ不足感がやや弱まりました。

来期（2025年4-6月期）の業況DIは▲4.5で今期より3.0ポイント低下する見通しとなっています。

業況DIは小売業を除く4業種で上昇、小売業は2期連続大幅に低下

業種別の業況DIは、建設業、サービス業は上昇しそれぞれ2期連続プラス圏、卸売業、製造業も上昇しましたがマイナス圏でした。小売業は低下し2期連続マイナス圏でした。採算DIは建設業、サービス業は上昇しそれぞれ15期ぶり、6期ぶりにプラス圏になりました。製造業も上昇しましたがマイナス圏でした。小売業、卸売業は低下しました。従業員DIは、建設業、サービス業で不足感が強まりました。製造業の不足感が最も弱い結果となりました。

卸売業は、売上高DI（▲12.5）が前期比横ばい、採算DI（▲25.0）は同6.2ポイント低下しましたが、業況DI（▲12.5）は同12.5ポイント上昇しました。小売業は、売上高DI（▲20.8）が同16.6ポイント、採算DI（▲16.7）が同12.5ポイントそれぞれ低下し、業況DI（▲20.8）は同12.5ポイント低下、コロナ5類移行後最も低くなりました。サービス業は、売上高DI（7.9）が同2.9ポイント上昇し、採算DI（5.3）が同12.8ポイント上昇し6期ぶりにプラス圏となり、業況DI（7.9）は同5.4ポイント上昇しました。建設業は、売上高DI（10.5）が同5.7ポイント上昇し、採算DI（10.5）が同15.3ポイント上昇し15期ぶりにプラス圏となり、業況DI（15.8）は同6.3ポイント上昇しました。従業員DIは▲63.2と不足感が非常に強くなりました。製造業は、売上高DI（10.8）、採算DI（▲2.7）がともに上昇し、業況DI（▲2.7）は同10.2ポイント上昇しました。販売価格DIが52.8で11期ぶりに50を越えました。従業員DIは▲2.7と不足感が非常に弱くなりました。

来期の業況DIは、小売業で上昇、サービス業は横ばい、製造業、建設業、卸売業で低下する見通しとなりました。

人手不足対策は採用力強化や従業員の能力開発等と生産性向上の両面から

今期のトピックス（前ページ）で人手不足対策を人事面や生産性の観点から聞いたところ、上位は「採用活動の強化」「従業員の能力開発」「事業のスリム化、ムダの排除、外注の活用」の順でした。4位の「デジタル・機械・ロボットの活用」は製造業、サービス業、建設業の順に高く、5位の「シニア、外国人材など多様な人材の活躍推進」は製造業、建設業が突出して高い結果でした。「実施していない・実施の予定はない」は小売業（52.6%）、卸売業（40.0%）、サービス業（38.2%）、製造業（27.8%）でした。雇用DIが最も低く人手不足感が強い建設業は0%で全ての項目を実施していました。

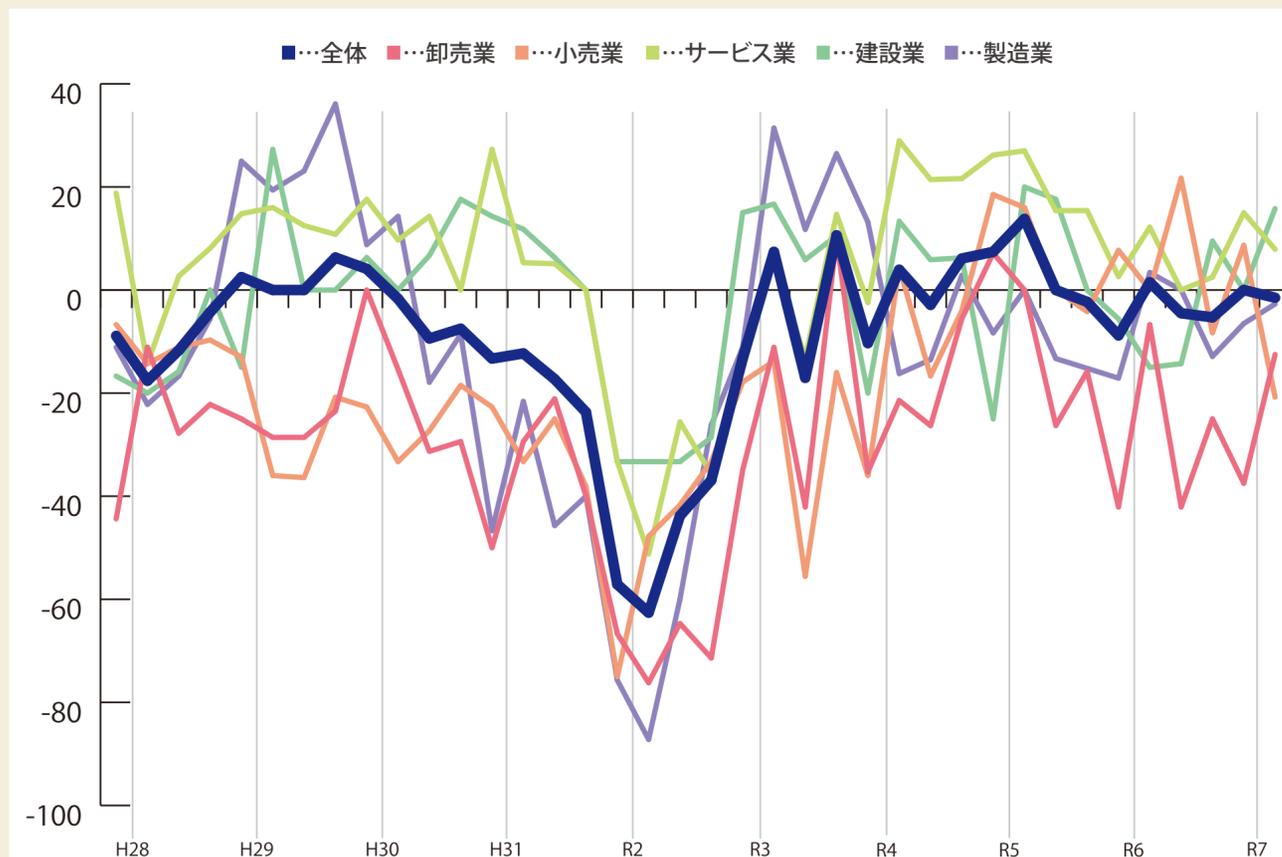
人手不足感が強い業種ほどあらゆる手段を講じ多様な人材の活用にも積極的です。業種や個々の企業により手法は違うでしょうが、採用方法・定着化策や外部人材を含めた多様な人材活用、多能工化等の人材開発、全社的な生産性向上などについて既成概念をはずして発想の転換を行い見直す努力が続いているようです。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

調査項目別 DI 値

	R6.1-3	R5.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
業況	▲ 8.8	1.5	▲ 4.5	▲ 5.3	▲ 1.5	▲ 4.5
売上高	▲ 7.3	2.3	▲ 4.5	0.0	1.5	▲ 5.2
採算(経常利益)	▲ 13.9	▲ 11.4	▲ 15.3	▲ 8.3	▲ 3.7	▲ 21.6
資金繰り	▲ 6.6	▲ 5.3	▲ 13.7	▲ 8.3	▲ 6.0	▲ 9.8
従業員	▲ 24.4	▲ 26.5	▲ 22.0	▲ 24.4	▲ 20.3	▲ 17.3
取引の問い合わせ	▲ 11.9	▲ 8.5	▲ 5.4	▲ 6.9	▲ 17.6	▲ 19.1
採算の水準	8.1	15.9	8.4	20.5	11.4	10.6
販売価格	41.8	39.5	35.2	41.2	47.0	41.7
仕入れ価格	75.4	71.3	72.1	71.5	78.0	68.2
業界動向	▲ 19.8	▲ 20.6	▲ 20.9	▲ 20.5	▲ 30.8	▲ 30.8
借入難易度(長期)	6.8	1.6	▲ 1.6	▲ 0.8	0.8	▲ 0.8
借入難易度(短期)	10.1	6.3	1.6	4.8	2.3	0.8
受注動向(建設業)	▲ 5.9	▲ 15.8	0.0	0.0	15.8	▲ 5.6
在庫量(製造業)	7.4	▲ 8.3	11.1	▲ 3.7	▲ 12.9	▲ 16.7

業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



※R7.1-3のDIは見通し

業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

業況の動き アイコンの説明

- 前期の業況DI値から +1以上
- 前期の業況DI値から +1未満 ▲1超
- 前期の業況DI値から ▲1以下

※全国の業況DI... 「中小企業業況調査」 (中小企業庁)結果より

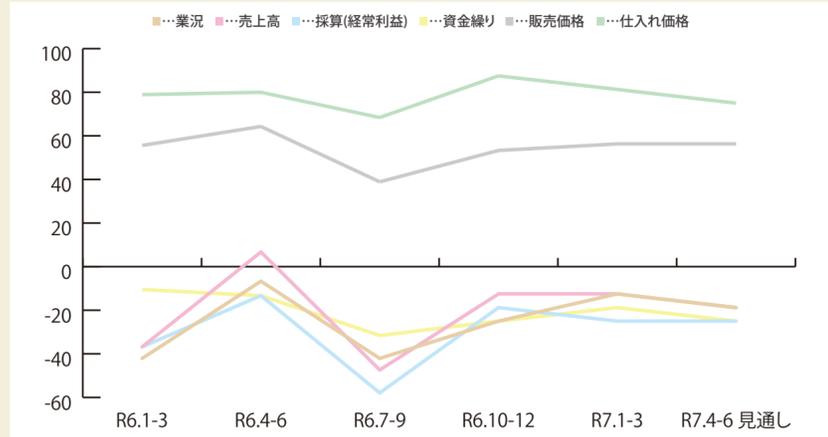
卸売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲13.7→▲16.2

長浜: 業況DI ▲25.0→12.5

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
業況	▲42.1	▲6.7	▲42.1	▲25.0	▲12.5	▲18.8
売上高	▲36.8	6.7	▲47.4	▲12.5	▲12.5	▲18.8
採算(経常利益)	▲36.8	▲13.3	▲57.9	▲18.8	▲25.0	▲25.0
資金繰り	▲10.5	▲13.3	▲31.6	▲25.0	▲18.8	▲25.0
販売価格	55.6	64.3	38.9	53.3	56.3	56.3
仕入れ価格	78.9	80.0	68.4	87.5	81.3	75.0



事業者の声

好転

- 前年の反動としての、自動車生産・販売の戻り
- 問い合わせが多くなった

悪化

- 諸物価の値上げによる消費の減退
- 4月の建築基準法改正の関係で少し動きがにぶい。

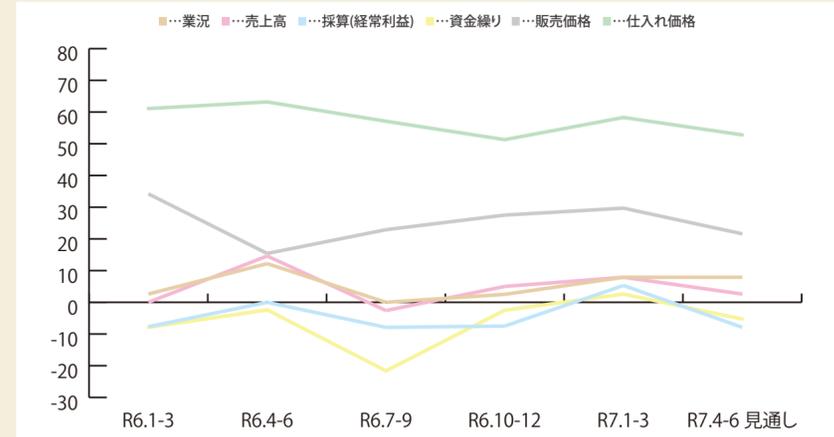
サービス業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI 12.2→▲18.4

長浜: 業況DI 2.5→7.9

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
業況	2.6	12.2	0.0	2.5	7.9	7.9
売上高	0.0	14.6	▲2.6	5.0	7.9	2.6
採算(経常利益)	▲7.7	0.0	▲7.9	▲7.5	5.3	▲7.9
資金繰り	▲7.9	▲2.4	▲21.6	▲2.5	2.6	▲5.3
販売価格	34.2	15.4	22.9	27.5	29.7	21.6
仕入れ価格	61.1	63.2	57.1	51.3	58.3	52.8



事業者の声

好転

- 積み上げてきた施策がうまく行きかけている
- イベント、スポーツ大会が活発
- 取引先がふえたことで、今後の営業の幅がひろがった

悪化

- 仕入価額上昇の転嫁が進んでいない
- 物価高騰
- 光熱費の増加

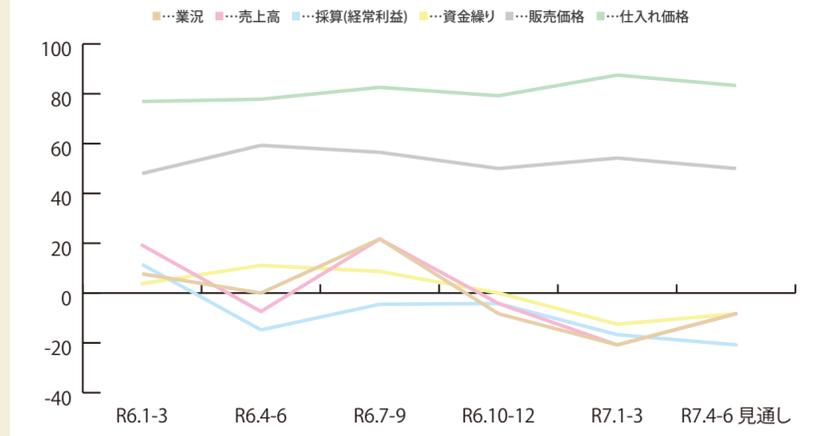
小売業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲29.2→▲31.2

長浜: 業況DI ▲8.3→▲20.8

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
業況	7.7	0.0	21.7	▲8.3	▲20.8	▲8.3
売上高	19.2	▲7.4	21.7	▲4.2	▲20.8	▲8.3
採算(経常利益)	11.5	▲14.8	▲4.5	▲4.2	▲16.7	▲20.8
資金繰り	3.8	11.1	8.7	0.0	▲12.5	▲8.3
販売価格	48.0	59.3	56.5	50.0	54.2	50.0
仕入れ価格	76.9	77.8	82.6	79.2	87.5	83.3



事業者の声

好転

- 人材面では不足感はなくなった
- 販売単価アップに売上が増加した
- 天候も良くイベント等が多く開催され観光客の人も増えてきている

悪化

- 観光客の減少や買い控えのためか、店頭販売の前年割れが続く
- 物価高による消費低調
- 原価、販管費の上昇による、損益や資金繰りへの影響
- 仕入れ先の値上げに対し、価格転嫁は困難

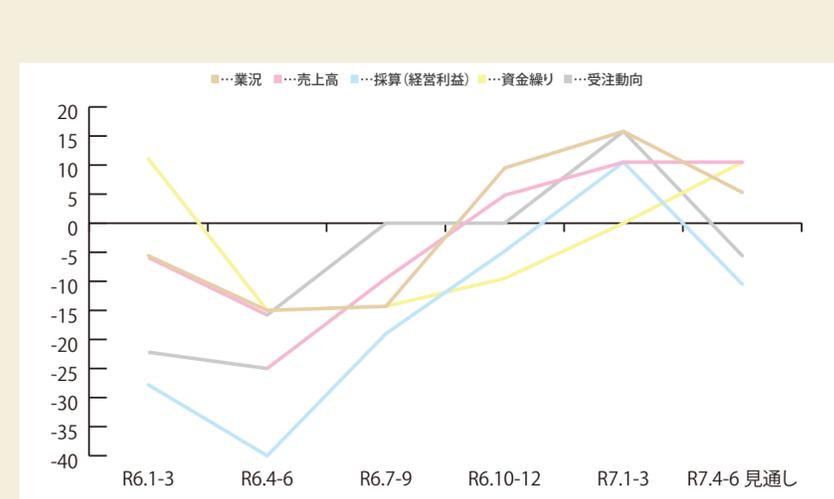
建設業

業況の動き (3ヶ月前比較)

全国: 業況DI ▲9.7→▲14.8

長浜: 業況DI 9.5→15.8

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
業況	▲5.6	▲15.0	▲14.3	9.5	15.8	5.3
売上高	▲22.2	▲25.0	▲9.5	4.8	10.5	10.5
採算(経常利益)	▲27.8	▲40.0	▲19.0	▲4.8	10.5	▲10.5
資金繰り	11.1	▲15.0	▲14.3	▲9.5	0.0	10.5
受注動向	▲5.9	▲15.8	0.0	0.0	15.8	▲5.6



事業者の声

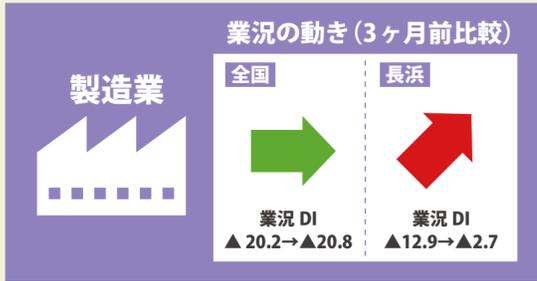
好転

- 仕入れ価格は上昇したが、販売価格への転嫁が可能となった
- 人員が少しずつ確保できている

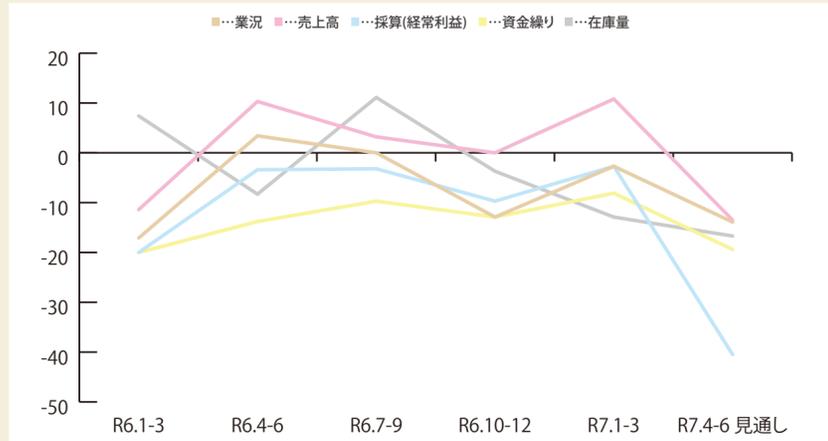
悪化

- 採用単価が上昇している
- 仕事のエリア拡大に伴い、人手不足が顕著に表れ人材の確保に苦戦
- 住宅ローンの金利上昇が消費意欲の低迷にもつながっている
- 建築基準法6条改正で特に4号特例の縮小が業界(特に住宅部分内)に悪影響を及ぼす可能性あり

業種ごとの動向（製造業）



	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
業況	▲17.1	3.4	0.0	▲12.9	▲2.7	▲13.9
売上高	▲11.4	10.3	3.2	0.0	10.8	▲13.5
採算(経常利益)	▲20.0	▲3.4	▲3.2	▲9.7	▲2.7	▲40.5
資金繰り	▲20.0	▲13.8	▲9.7	▲12.9	▲8.1	▲19.4
在庫量	7.4	▲8.3	11.1	▲3.7	▲12.9	▲16.7



事業者の声

好転

- ・値上げや新商品投入による商品1点あたりの付加価値上昇
- ・受注数の増加
- ・新規開拓分野(アパレル方面)は少しずつではあるが伸びている

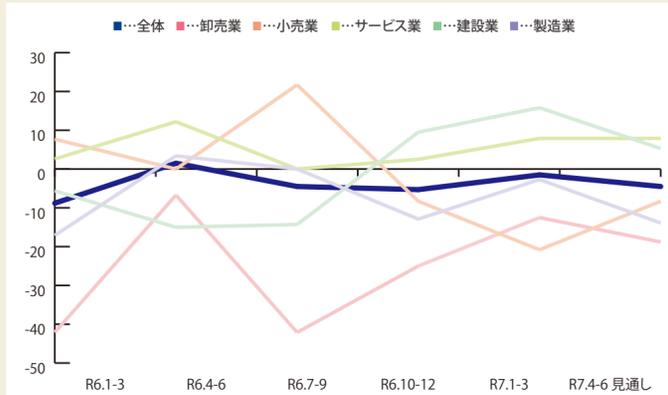
悪化

- ・トランプ大統領の関税政策により案件が減少している
- ・人件費を含む経費増により採算は悪化する
- ・原材料の上昇に対し、価格転嫁ができない
- ・主要取引先の建設機械メーカーに未だ景況感好転の兆しは見られない

調査項目別 DI の推移①

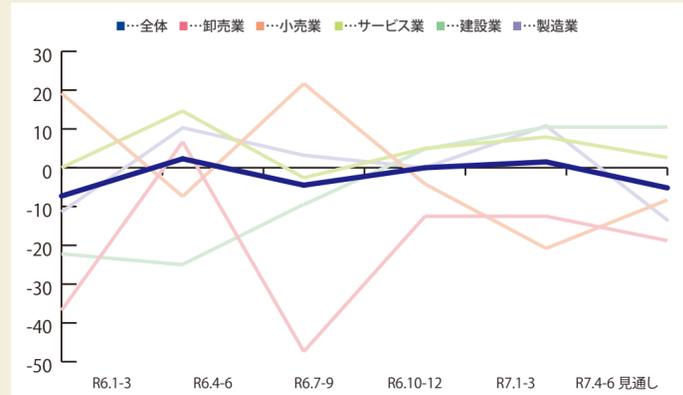
業況 (好転-悪化)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	▲8.8	1.5	▲4.5	▲5.3	▲1.5	▲4.5
卸売業	▲42.1	▲6.7	▲42.1	▲25.0	▲12.5	▲18.8
小売業	7.7	0.0	21.7	▲8.3	▲20.8	▲8.3
サービス業	2.6	12.2	0.0	2.5	7.9	7.9
建設業	▲5.6	▲15.0	▲14.3	9.5	15.8	5.3
製造業	▲17.1	3.4	0.0	▲12.9	▲2.7	▲13.9



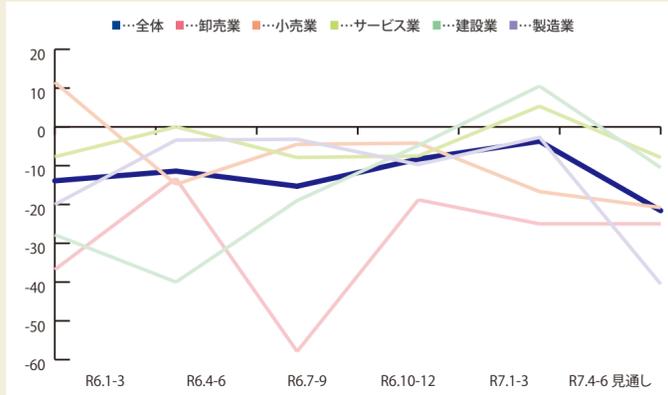
売上高 (増加-減少)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	▲7.3	2.3	▲4.5	0.0	1.5	▲5.2
卸売業	▲36.8	6.7	▲47.4	▲12.5	▲12.5	▲18.8
小売業	19.2	▲7.4	21.7	▲4.2	▲20.8	▲8.3
サービス業	0.0	14.6	▲2.6	5.0	7.9	2.6
建設業	▲22.2	▲25.0	▲9.5	4.8	10.5	10.5
製造業	▲11.4	10.3	3.2	0.0	10.8	▲13.5



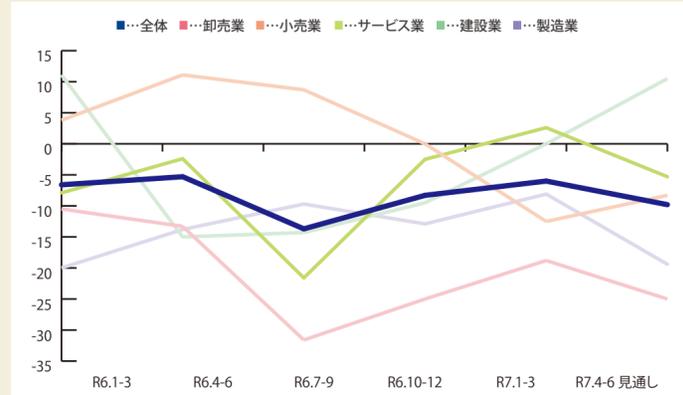
採算 (好転-悪化)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	▲13.9	▲11.4	▲15.3	▲8.3	▲3.7	▲21.6
卸売業	▲36.8	▲13.3	▲57.9	▲18.8	▲25.0	▲25.0
小売業	11.5	▲14.8	▲4.5	▲4.2	▲16.7	▲20.8
サービス業	▲7.7	0.0	▲7.9	▲7.5	5.3	▲7.9
建設業	▲27.8	▲40.0	▲19.0	▲4.8	10.5	▲10.5
製造業	▲20.0	▲3.4	▲3.2	▲9.7	▲2.7	▲40.5



資金繰り (好転-悪化)

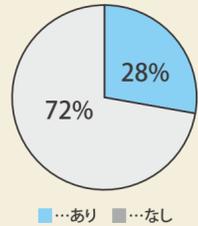
	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	▲6.6	▲5.3	▲13.7	▲8.3	▲6.0	▲9.8
卸売業	▲10.5	▲13.3	▲31.6	▲25.0	▲18.8	▲25.0
小売業	3.8	11.1	8.7	0.0	▲12.5	▲8.3
サービス業	▲7.9	▲2.4	▲21.6	▲2.5	2.6	▲5.3
建設業	11.1	▲15.0	▲14.3	▲9.5	0.0	10.5
製造業	▲20.0	▲13.8	▲9.7	▲12.9	▲8.1	▲19.4



設備投資の有無

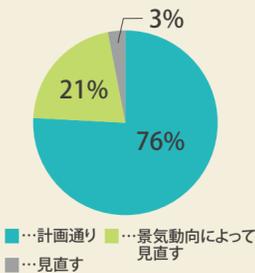
①設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	4	1	7	9	17	38
なし	12	23	31	10	20	96



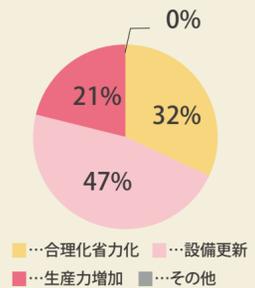
②①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	3	0	4	7	15	29
景気動向によって見直す	1	1	3	1	2	8
見直す	0	0	0	1	0	1



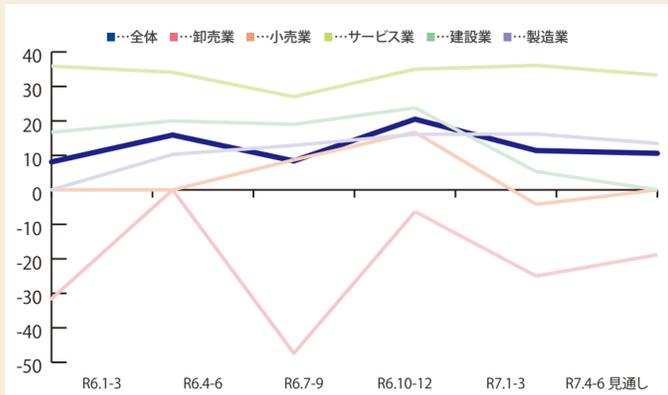
③①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	1	0	1	2	8	12
設備更新	2	0	6	4	6	18
生産力増加	1	1	0	3	3	8
その他	0	0	0	0	0	0



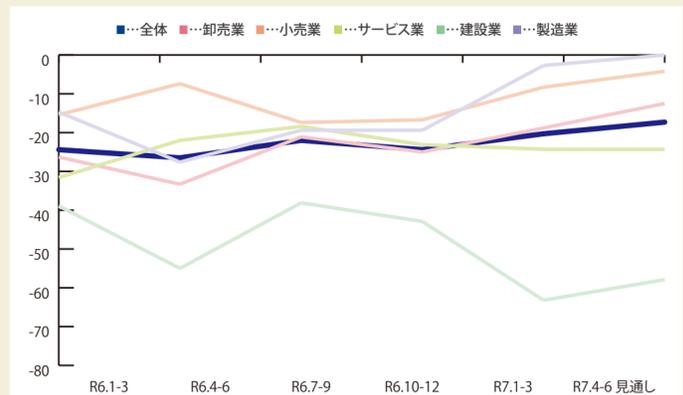
採算の水準 (黒字-赤字)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	8.1	15.9	8.4	20.5	11.4	10.6
卸売業	▲31.6	0.0	▲47.4	▲6.3	▲25.0	▲18.8
小売業	0.0	0.0	8.7	16.7	▲4.2	0.0
サービス業	35.9	34.1	27.0	35.0	36.1	33.3
建設業	16.7	20.0	19.0	23.8	5.3	0.0
製造業	0.0	10.3	12.9	16.1	16.2	13.5



従業員 (過剰-不足)

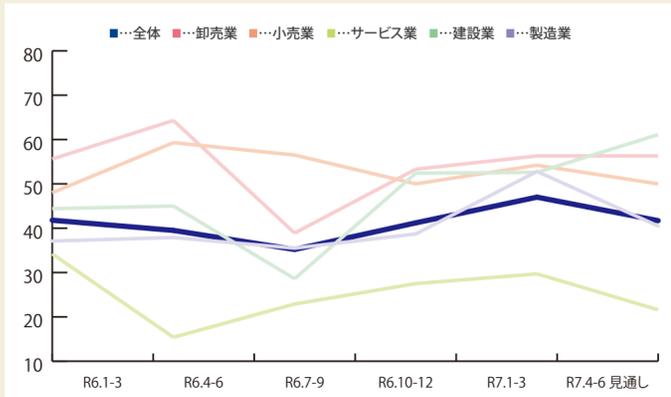
	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	▲24.4	▲26.5	▲22.0	▲24.4	▲20.3	▲17.3
卸売業	▲26.3	▲33.3	▲21.1	▲25.0	▲18.8	▲12.5
小売業	▲15.4	▲7.4	▲17.4	▲16.7	▲8.3	▲4.2
サービス業	▲31.6	▲22.0	▲18.4	▲23.1	▲24.3	▲24.3
建設業	▲38.9	▲55.0	▲38.1	▲42.9	▲63.2	▲57.9
製造業	▲14.7	▲27.6	▲19.4	▲19.4	▲2.7	0.0



調査項目別 DI の推移②

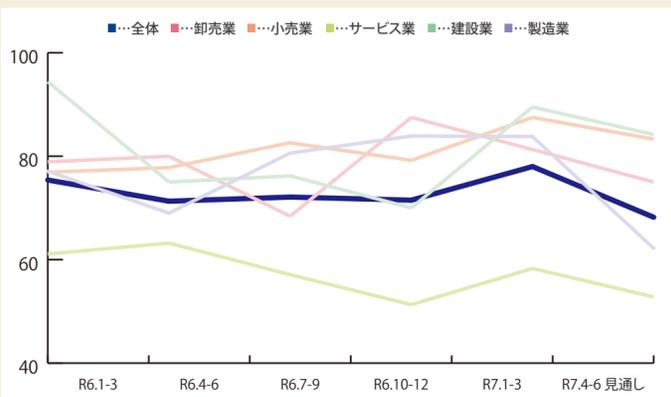
販売価格(上昇-下落)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	41.8	39.5	35.2	41.2	47.0	41.7
卸売業	55.6	64.3	38.9	53.3	56.3	56.3
小売業	48.0	59.3	56.5	50.0	54.2	50.0
サービス業	34.2	15.4	22.9	27.5	29.7	21.6
建設業	44.4	45.0	28.6	52.4	52.6	61.1
製造業	37.1	37.9	35.5	38.7	52.8	40.5



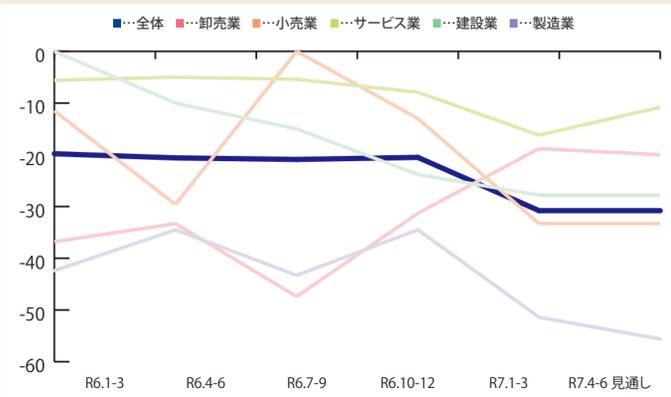
仕入価格(上昇-下落)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	75.4	71.3	72.1	71.5	78.0	68.2
卸売業	78.9	80.0	68.4	87.5	81.3	75.0
小売業	76.9	77.8	82.6	79.2	87.5	83.3
サービス業	61.1	63.2	57.1	51.3	58.3	52.8
建設業	94.4	75.0	76.2	70.0	89.5	84.2
製造業	77.1	69.0	80.6	83.9	83.8	62.2



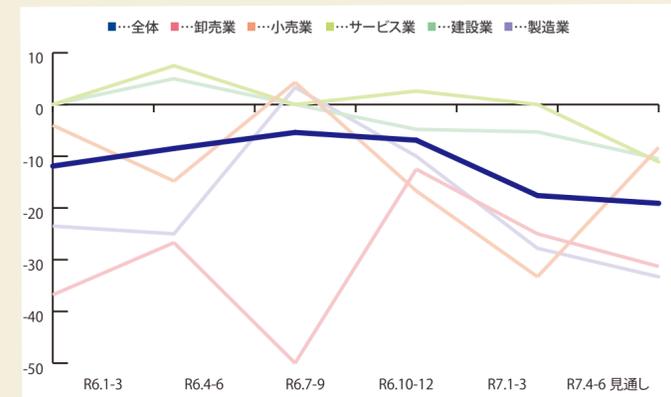
業界動向(好転-悪化)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	▲19.8	▲20.6	▲20.9	▲20.5	▲30.8	▲30.8
卸売業	▲36.8	▲33.3	▲47.4	▲31.3	▲18.8	▲20.0
小売業	▲11.5	▲29.6	0.0	▲13.0	▲33.3	▲33.3
サービス業	▲5.6	▲5.0	▲5.4	▲7.9	▲16.2	▲10.8
建設業	0.0	▲10.0	▲15.0	▲23.8	▲27.8	▲27.8
製造業	▲42.4	▲34.5	▲43.3	▲34.5	▲51.4	▲55.6



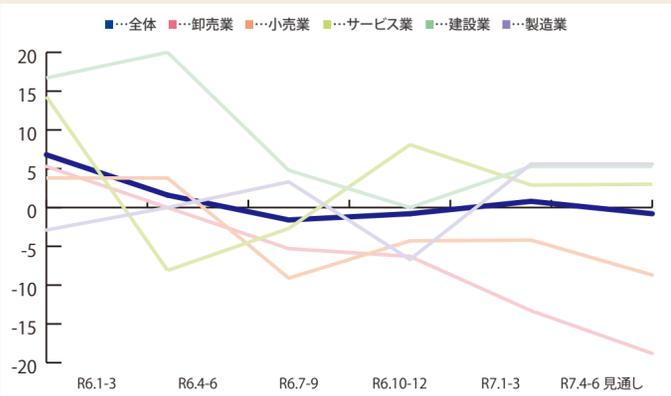
取引問合せ(活発-低調)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	▲11.9	▲8.5	▲5.4	▲6.9	▲17.6	▲19.1
卸売業	▲36.8	▲26.7	▲50.0	▲12.5	▲25.0	▲31.3
小売業	▲4.0	▲14.8	4.3	▲16.7	▲33.3	▲8.3
サービス業	0.0	7.5	0.0	2.6	0.0	▲11.1
建設業	0.0	5.0	0.0	▲4.8	▲5.3	▲10.5
製造業	▲23.5	▲25.0	3.3	▲10.0	▲27.8	▲33.3



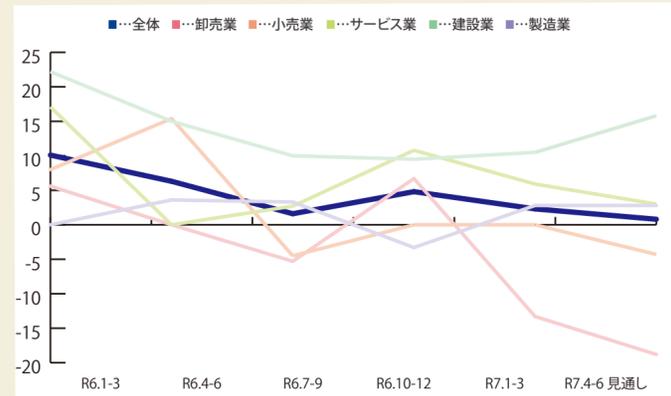
長期資金借入難度(容易-困難)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	6.8	1.6	▲1.6	▲0.8	0.8	▲0.8
卸売業	5.3	0.0	▲5.3	▲6.3	▲13.3	▲18.8
小売業	3.8	3.8	▲9.1	▲4.3	▲4.2	▲8.7
サービス業	14.3	▲8.1	▲2.7	8.1	2.9	3.0
建設業	16.7	20.0	4.8	0.0	5.3	5.3
製造業	▲2.9	0.0	3.3	▲6.7	5.6	5.6



短期資金借入難度(容易-困難)

	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	R6.10-12	R7.1-3	R7.4-6 見通し
全体	10.1	6.3	1.6	4.8	2.3	0.8
卸売業	5.6	0.0	▲5.3	6.7	▲13.3	▲18.8
小売業	8.0	15.4	▲4.5	0.0	0.0	▲4.3
サービス業	17.1	0.0	2.7	10.8	5.9	3.0
建設業	22.2	15.0	10.0	9.5	10.5	15.8
製造業	0.0	3.6	3.3	▲3.3	2.8	2.8



その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> 前年の反動としての、自動車生産・販売の戻り。 問い合わせが多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 諸物価の値上げによる消費の減退。 長浜市の産業活性化(企業誘致)事業のビジョンが見えない。どうい産業を誘致していくのかしっかりとビジョンを見せてほしい。 卸売格の上昇。 4月の建築基準法改正の関係で少し動きがにぶいです。 どんどん悪化している。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 人材面では不足感はなくなった。 SNS広告の効果が良かった。 天候も良くイベント等が多く開催され観光客の人も増えてきている。 販売単価アップに売上が増加した。 高単価客層は、そこそこ。 	<ul style="list-style-type: none"> 客数というよりも(物価高の影響か)単価の低下、また必要最低限の購買にとどまっている気がする。 一般消費財のコストアップによる家計への負担が大きく、レジャー用品への節約が売上を下げています。 観光客の減少や買い控えのためか、店頭販売の前年割れが続く。 黒壁中心に人が集まり、人の動線が伸びない。回遊性にかける。 物価高による消費低調。 仕入価格上昇、圧迫する経費等で採算確保厳しい。トランプ関税等により景気悪化の雰囲気あり。 仕入れ原価上昇。 原価、販管費の上昇による、損益や資金繰りへの影響。 4月から仕入先より値上げ連絡あり。簡単に価格転嫁出来ないです。 仕入価格が軒並み高くなった。 政治の影響で景気がよくなり、お客様の財布の紐はかたい。 低単価客層が減少。 原材料の値上げが止まらない。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 積み上げてきた施策がうまく行きかけている。 イベント、スポーツ大会が活発である。 取引先がふえたことで、今後の営業の幅がひろがった。更に事業のリスク化をめざしながら新たなサービスもとりいれたい。 3月の売上がかなり良かった。 利益率の高い依頼が入るようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 光熱費の増加。 仕入価格上昇の転嫁が進んでいない。 物価高騰。 今回は悪化してないが、今後物価高傾向になったときに生活優先の消費になっていくと、自分のメンテナンスに消費していただけるかが少し不安要素になっている。今後の販路拡大や店舗の広報をどのように改善したらよいか、自社イメージとその施術のブランディングをどのようにしていったらよいか模索しているところです。 4月から新入社員が増えたこともあり、今後人件費などで圧迫される。 物価高などにより、人件費、車の維持費その他経費が多かかりすぎる。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 仕入れ価格は上昇したが、販売価格への転嫁が可能となった。 人員が少しずつ確保できている。 弊社の民間の取引先が大手製造メーカーと複数社ある為、滋賀県だけにこだわらず遠方での仕事の依頼が多い、また単価も値引き値切りもなく経費も含んでいただけるので助かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 採用環境については、徐々に採用単価は上昇している。 受注の機会の減少。 物価高に対応してもさらに値上がりしてしまう。 仕事のエリア拡大に伴い、人手不足が顕著に表れ人材の確保に苦戦している。 住宅ローンの金利上昇が消費意欲の低迷にもつながっている。 建築基準法6条改正で特に4号特例の縮小が業界(特に住宅部分内)に悪影響を及ぼすのではないかと。又、建築物省エネ法改正もコストUPにつながる。 いずれも今年4月から施工。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> お客様からの注文が増加。 昨年あったイベントが今年は無くなったり、新たにイベントが開催されたりして収支トントンになりました。 新規開拓分野(アパレル方面)は少しずつではあるが伸びている。 前期が悪すぎたこともあるが若干利益改善した。 値上げや新商品投入による商品1点あたりの付加価値上昇。 前期と同じ好転でもなく悪化でもない。 仕入価格や経費増を販売価格転嫁して売上高だけは上昇する。 主力先からの受注は落ち込んでいるが、船舶用からの受注は依然好調で業績の維持ができています。船舶用は、環境規制に伴うエンジンの排ガス規制装置。この分野は依然引き合い強い。 コラボ等の話がある。 金型業界では、この数年で非常に二極化が進んできたように感じる。現況業界全体としては非常に悪いと言われていたが、技術やサービスの面での革新を図り顧客のニーズを的確に捉えることができれば、国内での需要もまだまだ存在すると考えている。 通常用途とは違う目的で問合せをいただくことがあり、商談に繋がります。小物ですが前年に出席した催事に出展した際に売上が3倍になりました。輪奈ピロードの小物をご存じなく興味を持っていただいたようです。 	<ul style="list-style-type: none"> 人件費が重荷になっている。 トランプ大統領の関税政策により案件が減少している。 従来の和装需要が悪化の一途に歯止めがかからない。 トランプ関税強化による悪影響が非常に心配される。全体的に業界内でも良い話をきかない。 原材料の上昇に製品単価が変らない。 業界の業況がかなり冷え込んでいる。商品1点ごとの粗利は良くなっているが、全体として受注が減少気味なため採算は悪化。 大手が設備投資を控えている印象がある。量産ではなく、設備系の一品ものを製作している弊社にとっては、大手のものづくりが好転しないと厳しく、先行きが明るい話は聞かない。 主要取引先の建設機械メーカーに未だ景況感好転の兆しは見られない。米国相互関税の発動により、さらに不透明感が増す。 人件費を含む経費増により採算は悪化する。 アメリカの関税政策、継続的な円安。 トランプ関税により当社業界で緊縮及び商流の置換、置き去りになる等の懸念、および有事(衝突等)によるコンテナ船航行停止の懸念が著しく高まっている。 製造してもなかなか売上に繋がらない。コラボ等の問い合わせはあるが打合せ等時間がかかる。 電気自動車の問題で世界的に自動車の生産が落ち込んでいるうえに、トランプ関税によって世界のマーケットがかき回されていることにより、今後の世界経済の悪化が予想される。今後も、先が見通せない経済状況が続いていくことが懸念される。 原材料が上がっている状態でまだ販売価格転嫁が上手くいっていない。あと最近の原材料の具合が悪く、納期が遅れていく事も原因になっている。 仕入価格、物価高騰が止まらず、販売価格に反映できない。